

憲 法

・解答上の注意

1. 問題文は1枚、解答用紙は2枚（各問について1枚）、下書き用紙は1枚です。
2. 解答用紙には、一橋大学の受験番号を記入し、氏名は記入しないでください。
3. 解答用紙は、第1問用と、第2問用とが異なります。それぞれ正しい用紙に解答してください。
4. 解答は横書きにして、1問につき1枚の解答用紙に収めてください。解答用紙の追加、交換はしません。
5. 問題の内容についての質問には、応じません。
6. 貸与した六法に、書き込みをしてはいけません。
7. 試験終了後、問題文と下書き用紙は、持ち帰ってください。

第1問

衆議院小選挙区比例代表並立制に関する1999（平成11）年11月10日の最高裁判決のなかで、「小選挙区制は、全国的にみて国民の高い支持を集めた政党等に所属する者が得票率以上の割合で議席を獲得する可能性があつて、民意を集約し政権の安定につながる特質を有する反面、このような支持を集めることができれば、野党や少数派政党等であっても多数の議席を獲得することができる可能性があり、政権の交代を促す特質をも有する」と述べられている。

この見解をもとにして、以下の問題に答えなさい。

(1) 憲法上の代表制について論じたいうで、小選挙区制の基礎にある代表制論を明らかにしなさい。

(2) ①小選挙区制は死票が多く、自己の立場を政治に反映させる有権者の権利にとって問題のある制度である、②小選挙区制は、国会議員の選挙を通して政権を選択するという考え方に適した優れた制度であるという2つの見解のそれぞれについて、憲法原理との関係で論評しなさい。

第2問

国会議員Xは日頃からアイヌ民族はマイノリティであるがゆえに、その独自の文化的背景を持つ施策が政治の場で反映されにくいと考えてきた。そこで、こうした状況を改善するために、衆議院議員の議席数については3、参議院議員の議席数については2の議席をアイヌ民族に配分する制度を法律の改正を通じて実現しようと考えた。

このXの実現しようとしている制度について、憲法の観点から論評しなさい。